

網羅的測定実験のためのデータ解析ソリューションの紹介

網羅的測定実験を行う場合、測定データを解析する過程で、データの精度に注意を払いながら、多くの候補から確認実験が可能な候補数に絞り込むこと、そして、その候補分子と現象間の関係を解釈することが、成果を得るために重要な要素となります。

本セミナーでは、網羅解析の機能解釈にいたる後工程の重要なポイントを簡単にご説明し、そのポイントにフィットする、有用でユニークなソリューションをご紹介します。

セミナー終了後には、データ解析に関する相談の時間を設けますので、すでにデータをお持ちの方、これから実験をはじめようとお考えの方、どのようなことでも結構ですので、お気軽にご相談ください。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

日時：2016年5月17日（火）15時から

場所：琉球大学 熱帯生物圏研究センター 分子生命科学研究所 講義室

演題1

「網羅的解析の重要なポイント」

網羅的測定結果をデータ解析するときの重要なポイントについて簡単にご説明します。

「高感度発現解析手法 HiCEP 法の紹介」

リファレンス情報なしで、極低発現の転写物の発現変動も正確にとらえることができる高感度で適用範囲が広い発現解析実験手法をご紹介します。

「次世代シーケンサの適用分野の広がり」と受託解析コスト」

次世代シーケンサによる種々のアプリケーションについて、精度や適用分野や受託解析のコスト等トピックも含めて、をご紹介します。

株式会社メイブ
代表取締役 湯野川春信 氏

演題2

「Multi-Omics 解析ツールのご紹介」

データ解析を、統計処理することと思っている方が多くいらっしゃいますが、それほんの入り口に過ぎません。生物学的な解釈には、そこからさらにウェットな研究者を交えた検証に踏みこむことが必要です。Subio Platform、Subrium は、チームで解析作業をすすめるためのソフトウェア基盤です。

株式会社 Subio
代表取締役 田部暁郎 氏

演題3

「生命情報統合プラットフォーム KeyMolnet のご紹介」

網羅解析データを用いた解析例をご紹介します。データリストを眺めて悩んでいませんか？自社研究員が論文を読み、10年以上の歳月をかけて構築したデータベースを搭載した KeyMolnet を使うと、次の一手が見えてきます。

株式会社 KM データ
代表取締役 谷口理恵 氏

大勢の方のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ：遺伝資源応用学分野 岩崎 公典 (hiwasaki@comb.u-ryukyu.ac.jp)